

資料3 アンケート調査結果

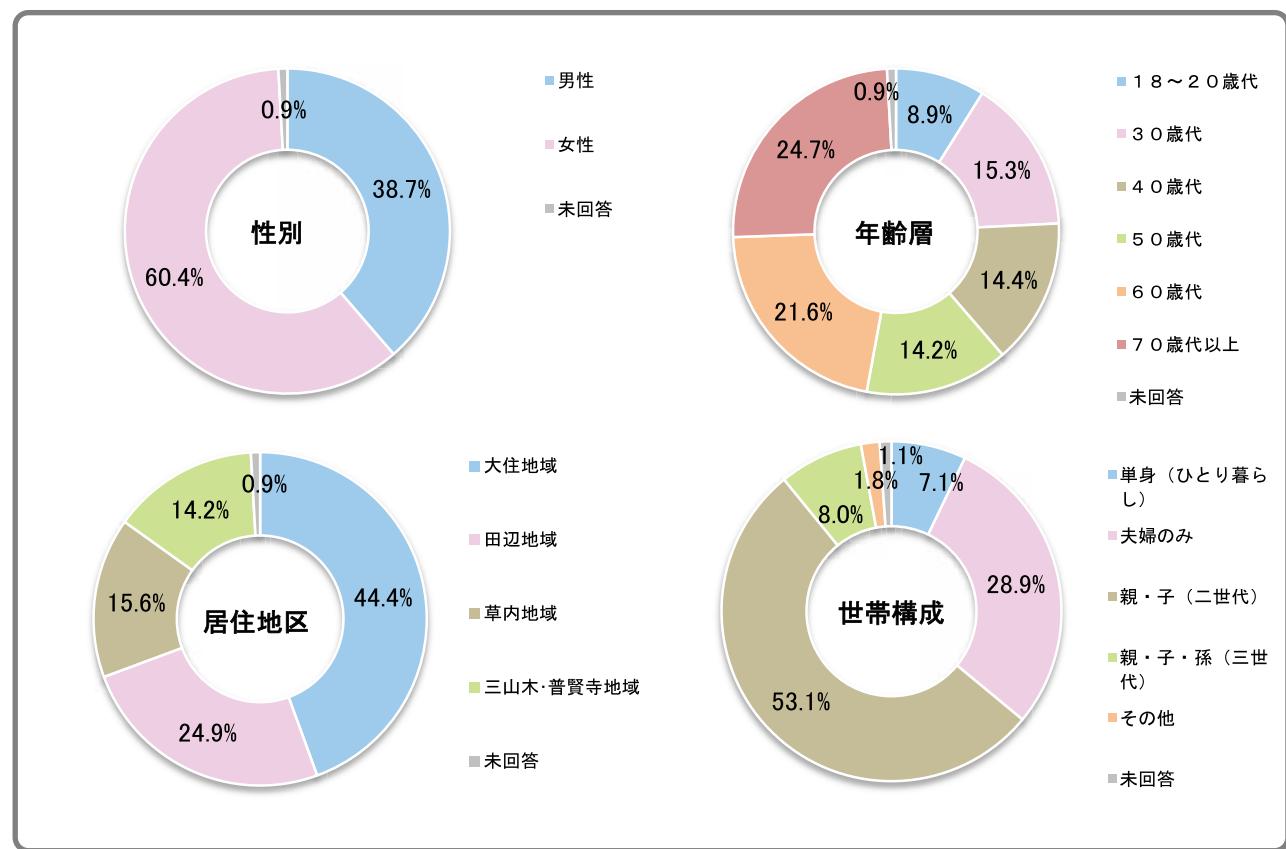
3.1 市民アンケート

3.1.1 市民アンケート概要

本計画の策定にあたり、地球温暖化対策に関する意見や日々の活動状況などを把握し、計画内容に反映するため市民を対象としたアンケート調査を行いました。

図表3-1 市民アンケート概要

| | |
|------|----------------------------|
| 対象者 | 市民（18歳以上） |
| 調査期間 | 2017（平成29）年 8月28日～9月11日 |
| 配布数 | 1,200件 |
| 回収数 | 450件 |
| 回収率 | 37.5% |

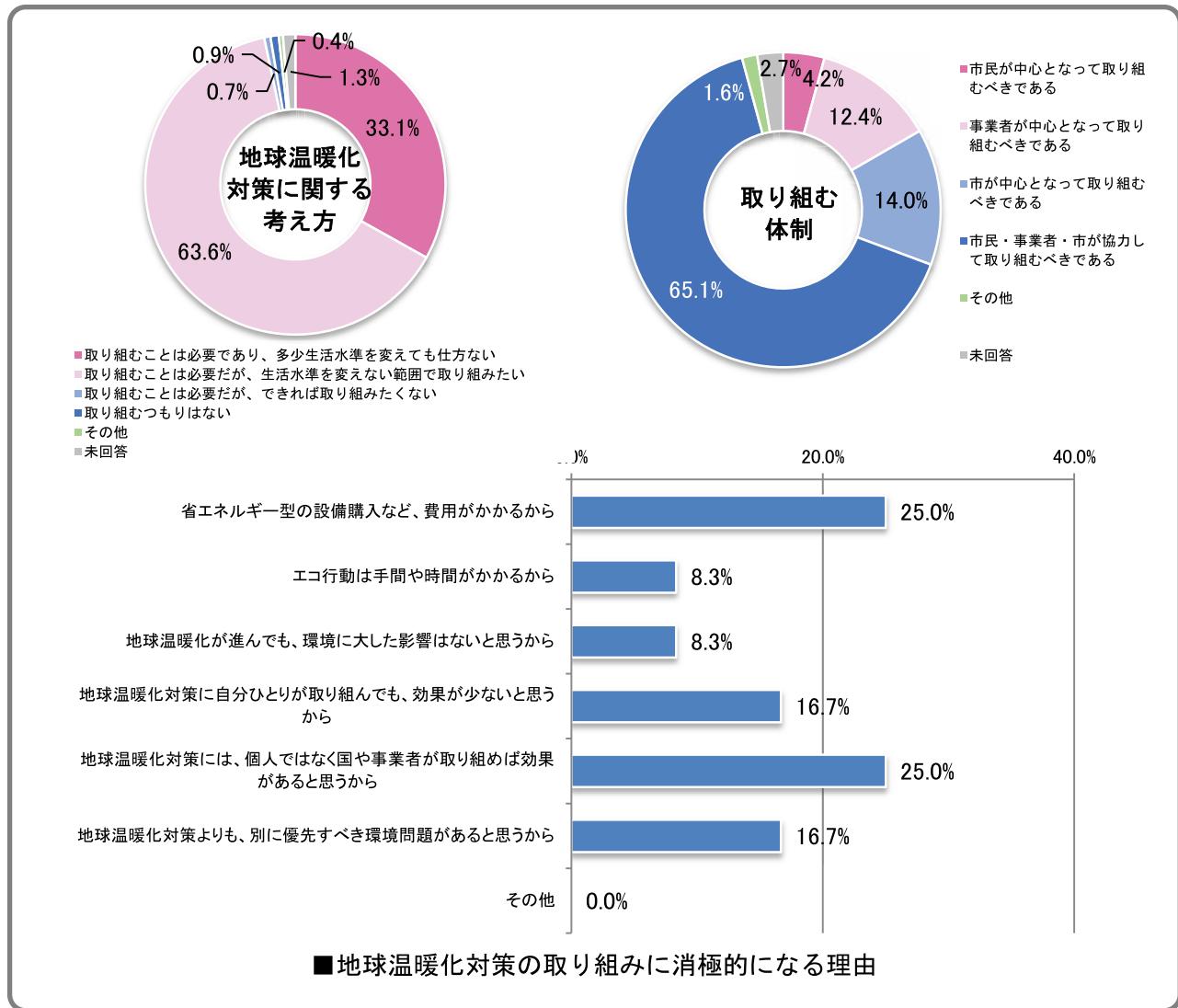


図表3-2 回答者の概要

- 性別は、「男性」が38.7%、「女性」が60.4%となっています。
- 年齢層は、「70歳代以上」の割合が24.7%で最も高く、次いで「60歳代」が21.6%、「30歳代」が15.3%で高くなっています。
- 居住地区は、「大住地域」の割合が44.4%で最も高く、次いで「田辺地域」が24.9%、「草内地域」が15.6%、「三山木・普賢寺地域」が14.2%となっています。
- 世帯構成は、「親・子（二世代）」の割合が53.1%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が28.9%で高くなっています。

3.1.2 各設問に対する回答

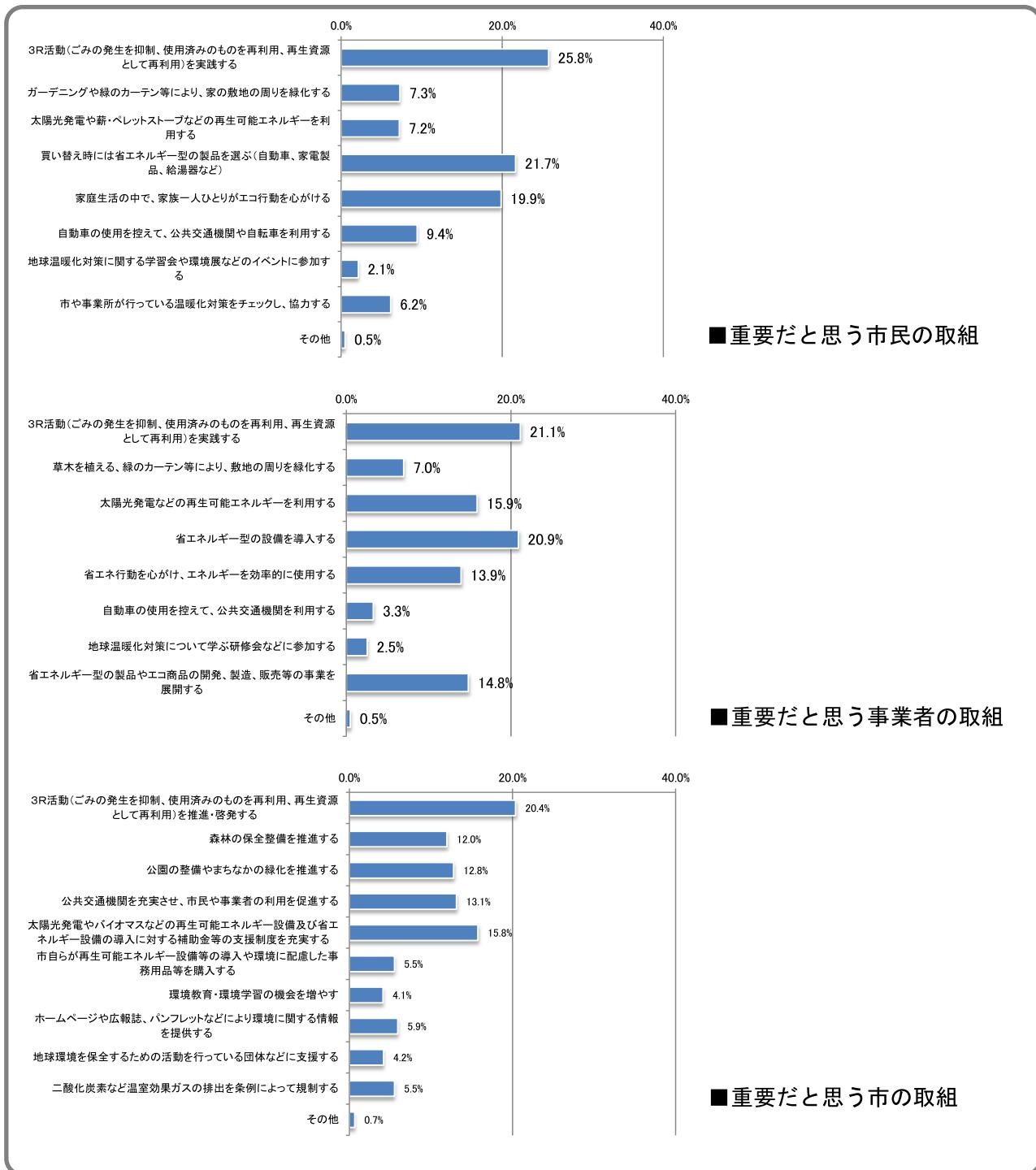
(1) 地球温暖化対策に対する考え方



図表 3-3 地球温暖化対策に対する考え方

- 地球温暖化対策に関する考え方、「取り組むことは必要ようだが、生活水準を変えない範囲で取り組みたい」の割合が63.6%と半数を占めており、取組意欲があることがうかがえます。
- 地球温暖化対策に取り組む体制は、「市民・事業者・市が協力して取り組むべきである」の割合が65.1%と大半を占めており、市民・事業者・市の連携した取組が求められています。
- 地球温暖化対策の取り組みに消極的原因としては、「省エネルギー型の設備購入など、費用がかかるから」「地球温暖化対策には、個人ではなく国や事業者が取り組めば効果があると思うから」の割合が25.0%で最も高く、次いで「地球温暖化対策に自分ひとりが取り組んでも、効果が少ないとと思うから」「地球温暖化対策よりも、別に優先すべき環境問題があると思うから」が16.7%で高くなっています。

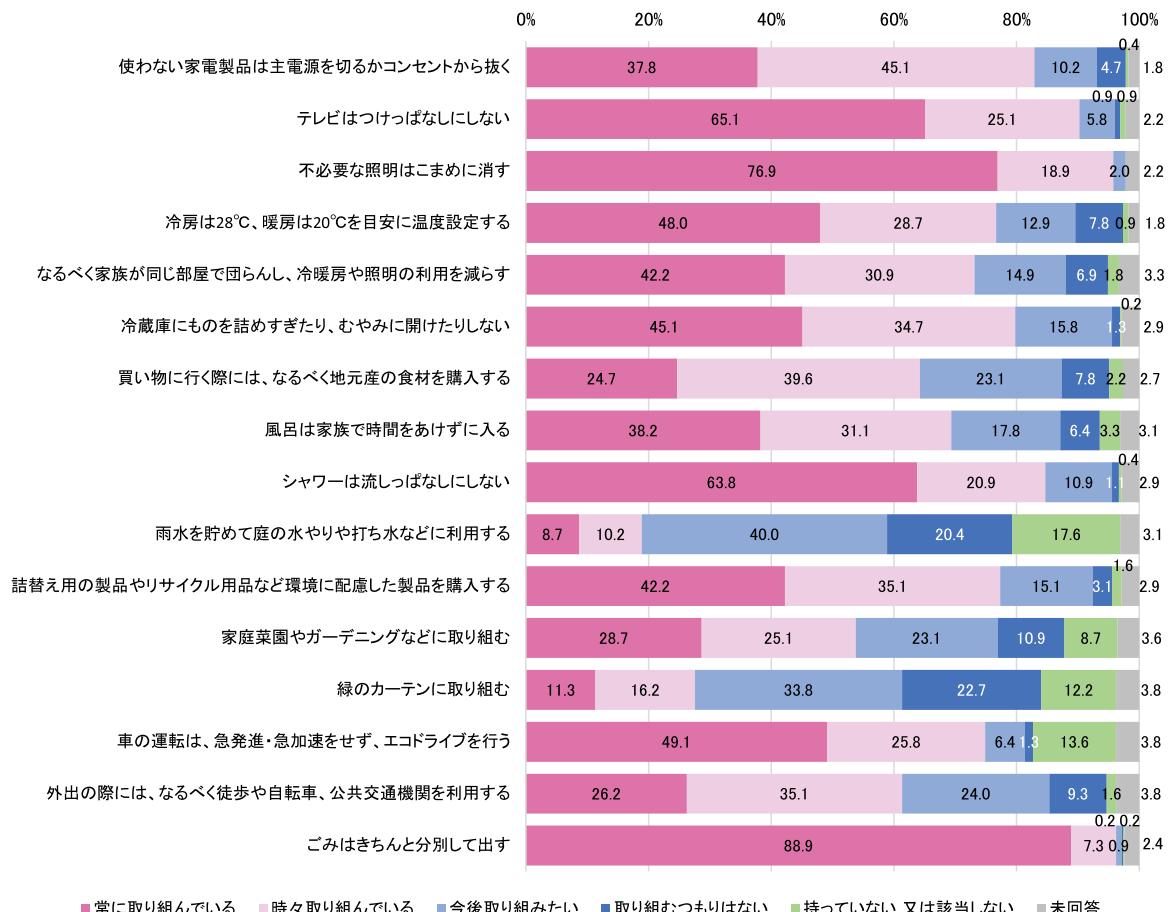
(2) 主体（市民・事業者・市）ごとに重要な取り組み



図表 3-4 主体（市民・事業者・市）ごとに重要な取り組み

- 重要な取り組みは、市民・事業者・市いずれも「3R活動（ごみの発生を抑制、使用済みのものを再利用、再生資源として再利用）を実践する」が最も高くなっています。

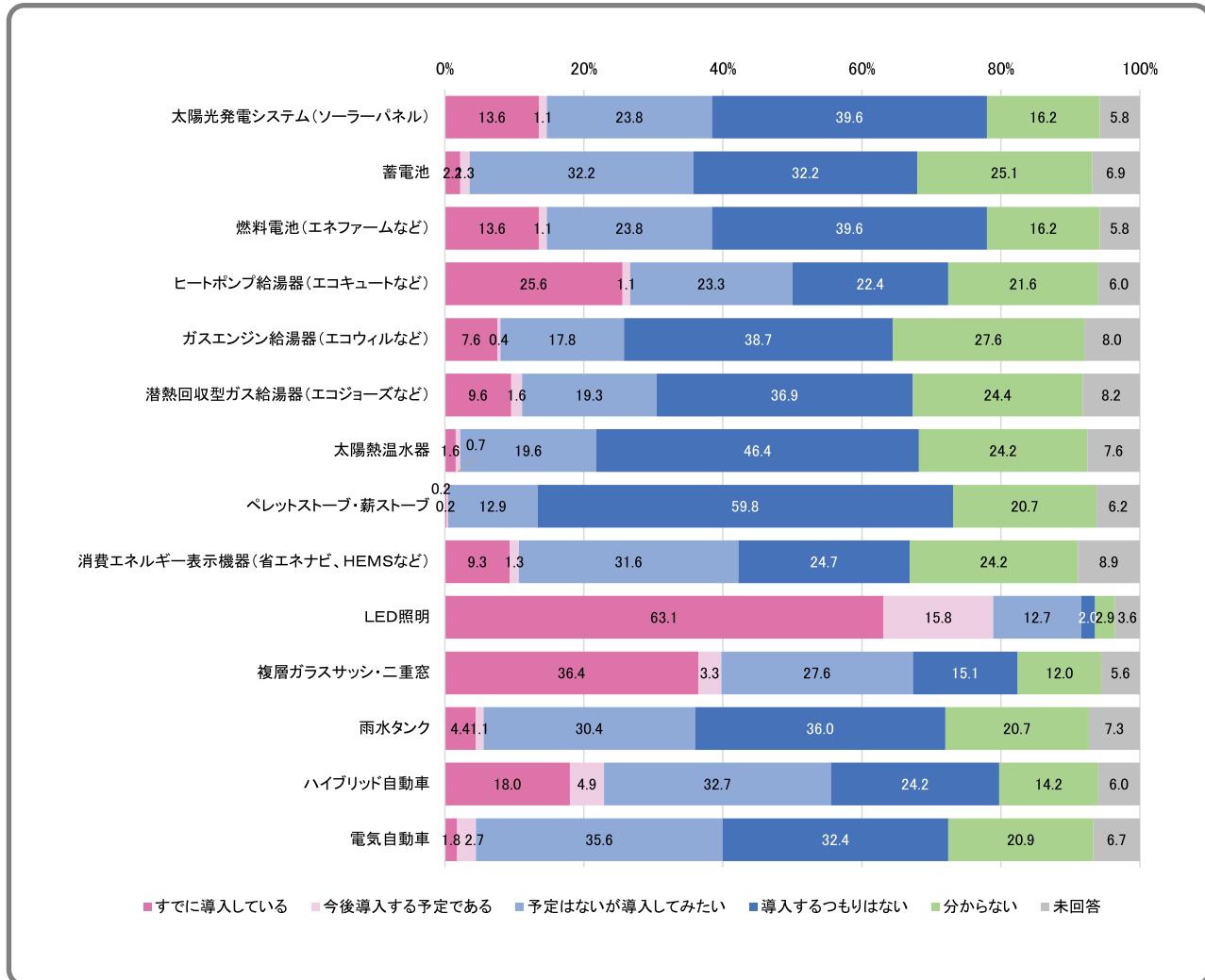
(3) 日常生活における取組状況



図表 3-5 日常生活における取組状況

- 日常生活における取組として、「雨水を貯めて庭の水やりや打ち水などに利用する」「緑のカーテンに取り組む」を除くすべての項目について、「常に取り組んでいる」「時々取り組んでいる」の割合が高くなっています。
- 特に「テレビはつけっぱなしにしない」「不必要的照明はこまめに消す」「シャワーは流しっぱなしにしない」「ごみはきちんと分別して出す」は、「常に取り組んでいる」の割合が半数以上を占めており、普及が進んでいると考えられます。
- これらのうち、他の人にお勧めしたい行動としては、「ごみはきちんと分別して出す」「不要な照明はこまめに消す」「使わない家電製品は主電源を切るかコンセントから抜く」が多く挙げられています。

(4) 環境に配慮した設備の導入状況

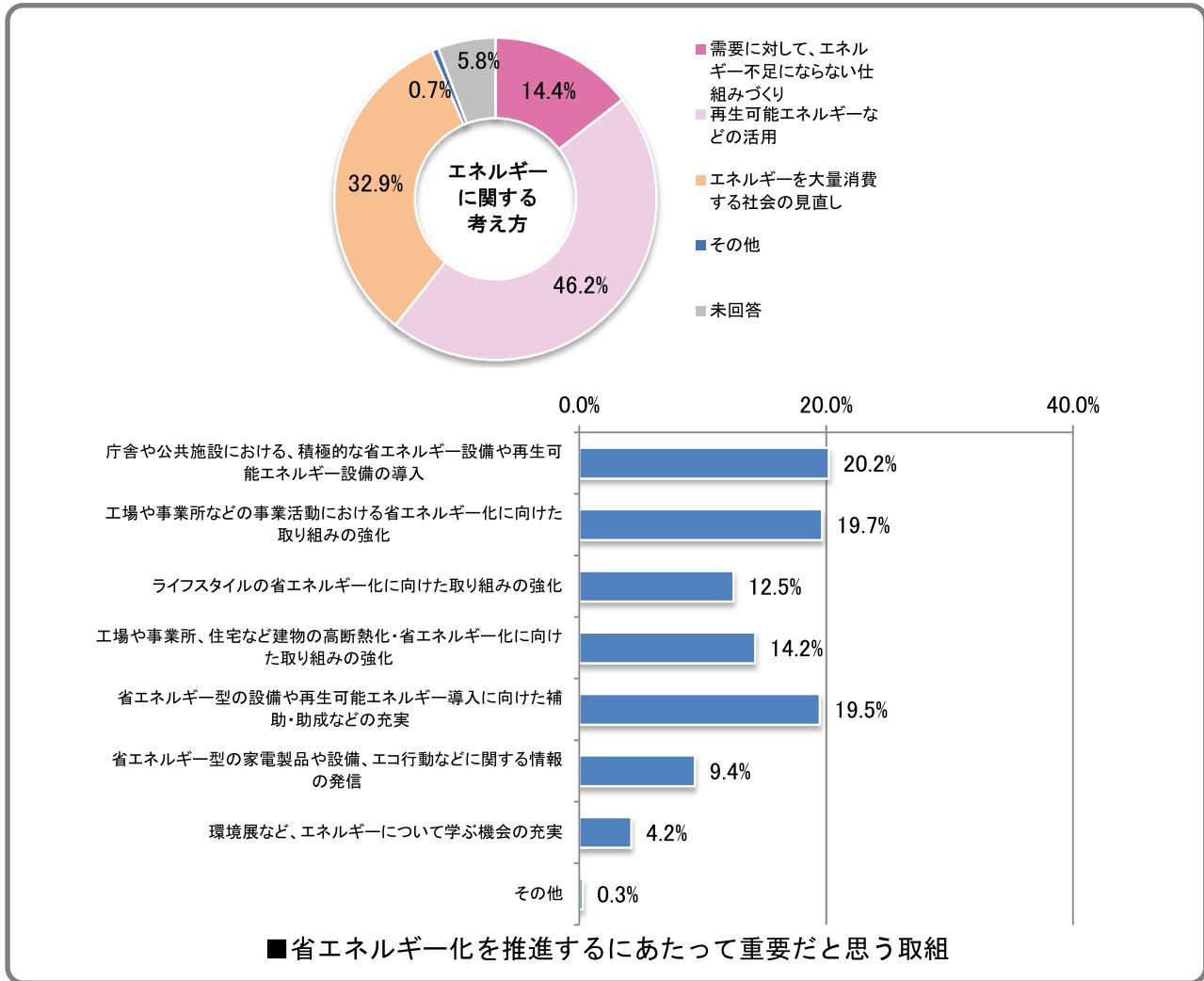


図表 3-6 環境に配慮した設備の導入状況

資料編

- 環境に配慮した設備の導入状況について、「すでに導入している」の割合が最も高かった設備は「LED 照明」で 63.1%となっており、次いで「複層ガラスサッシ・二重窓」が 36.4%、「ヒートポンプ給湯器(エコキュートなど)」が 25.6%となっており、導入が進んでいることがうかがえます。
- 一方、「導入するつもりはない」の割合が最も高かった設備は「ペレットストーブ・薪ストーブ」で 59.8%となっており、次いで「太陽熱温水器」が 46.4%となっています。

(5) エネルギーに関する考え方



図表 3-7 エネルギーに関する考え方

- 最も重要だと考えるエネルギーに関する取組は、「再生可能エネルギーなどの活用」の割合が46.2%と最も高く、次いで「エネルギーを大量消費する社会の見直し」が32.9%で高くなっています。
- 省エネルギー化を推進するにあたって重要な取り組みは、「庁舎や公共施設における、積極的な省エネルギー設備や再生可能エネルギー設備の導入」の割合が20.2%と最も高く、次いで「工場や事業所などの事業活動における省エネルギー化に向けた取り組みの強化」が19.7%で高くなっています。



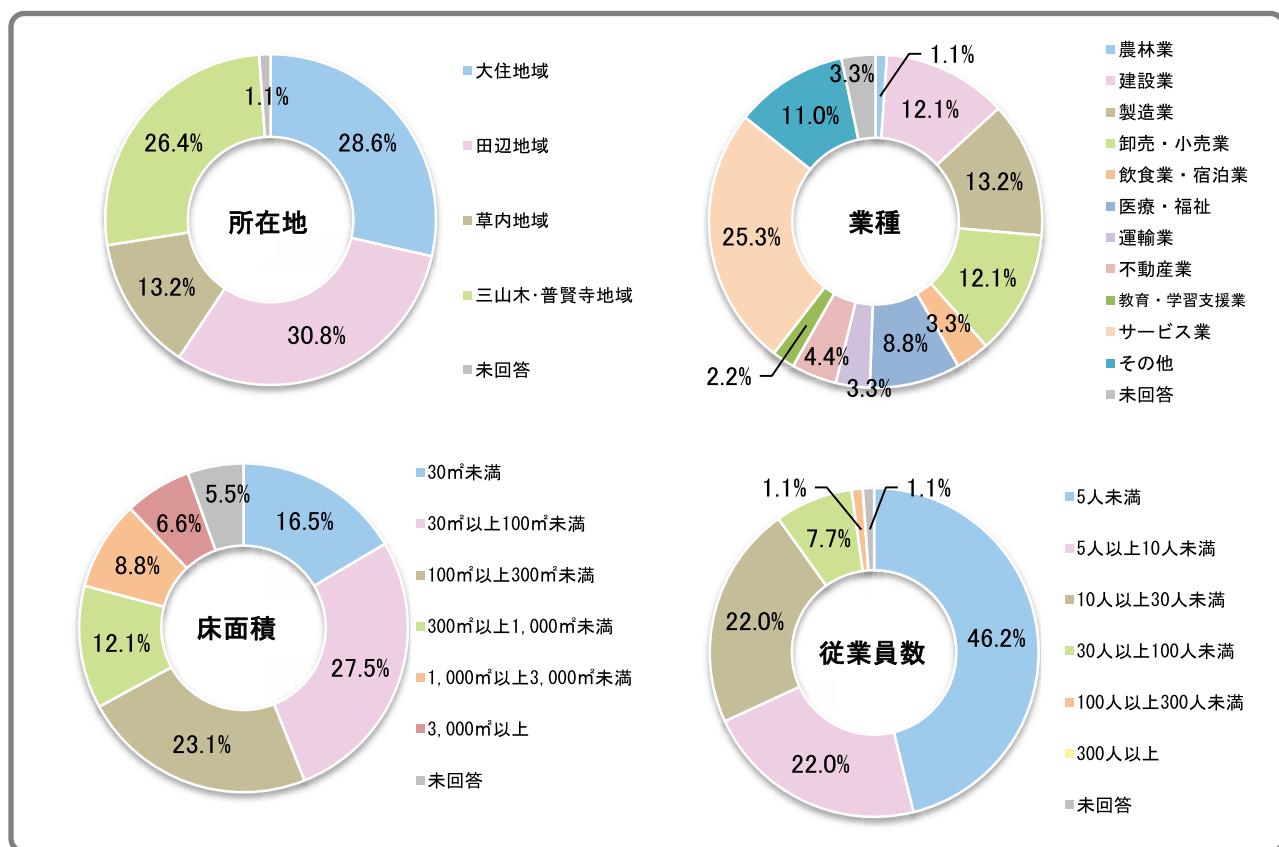
3.2 事業所アンケート

3.2.1 事業所アンケート概要

本計画の策定にあたり、地球温暖化対策に関する意見や日々の事業活動状況などを把握し、計画内容に反映するため事業者を対象としたアンケート調査を行いました。

図表 3-8 事業所アンケート概要

| | |
|------|----------------------------|
| 対象者 | 事業者 |
| 調査期間 | 2017(平成29)年 8月28日～9月11日 |
| 配布数 | 300件 |
| 回収数 | 91件 |
| 回収率 | 30.3% |

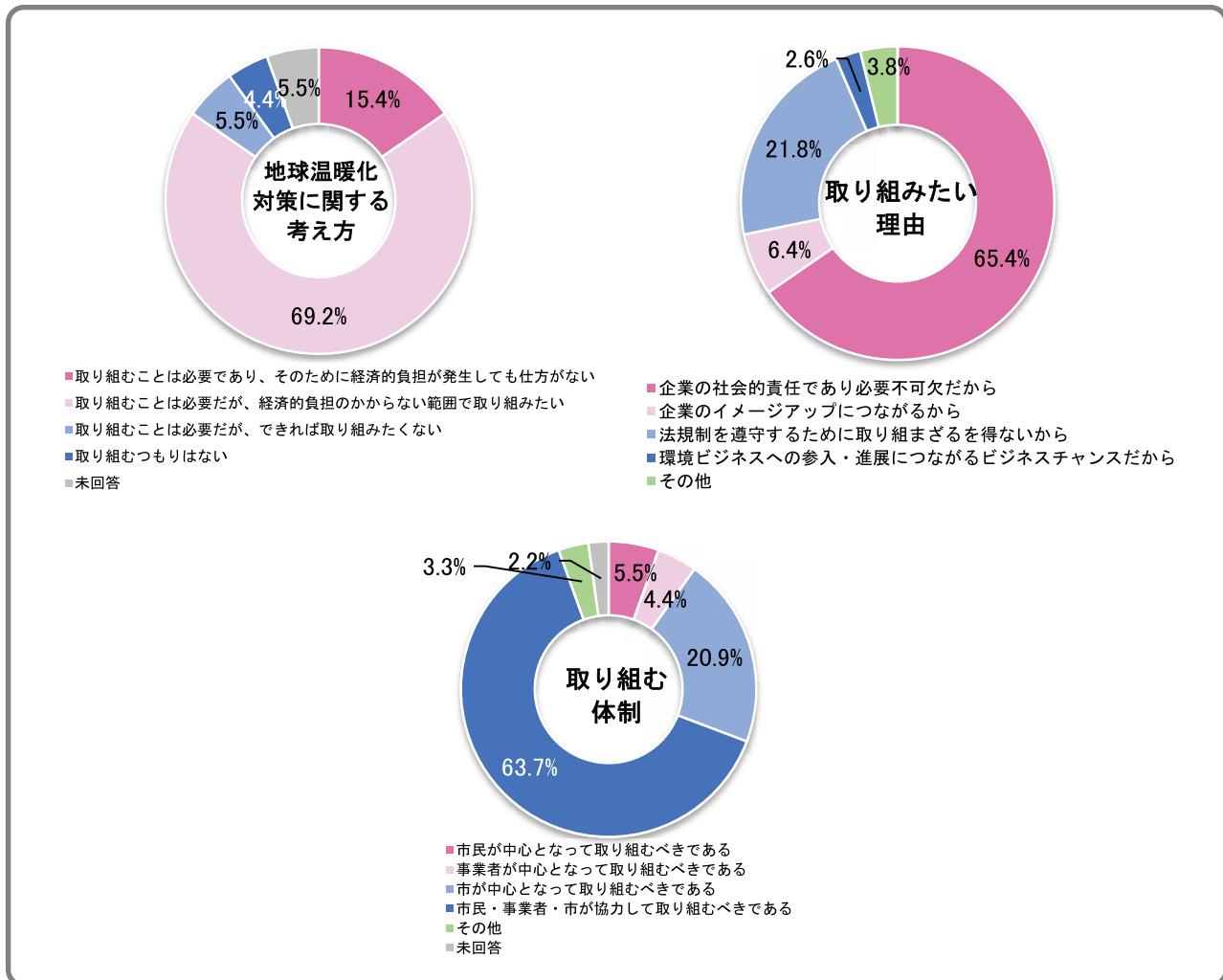


図表 3-9 回答者の概要

- 所在地は、「田辺地域」の割合が30.8%で最も高く、次いで「大住地域」が28.6%で高くなっています。
- 業種は、「サービス業」の割合が25.3%で最も高く、次いで「製造業」が13.2%、「建設業」「卸売・小売業」が12.1%で高くなっています。
- 延べ床面積は、「30m²以上100m²未満」の割合が27.5%で最も高く、次いで「100m²以上300m²未満」が23.1%、「30m²未満」が16.5%で高くなっています。
- 従業員数は、「5人未満」の割合が46.2%で最も高く、次いで「5人以上10人未満」「10人以上30人未満」が22.0%で高くなっています。

2.2.2 各設問に対する回答

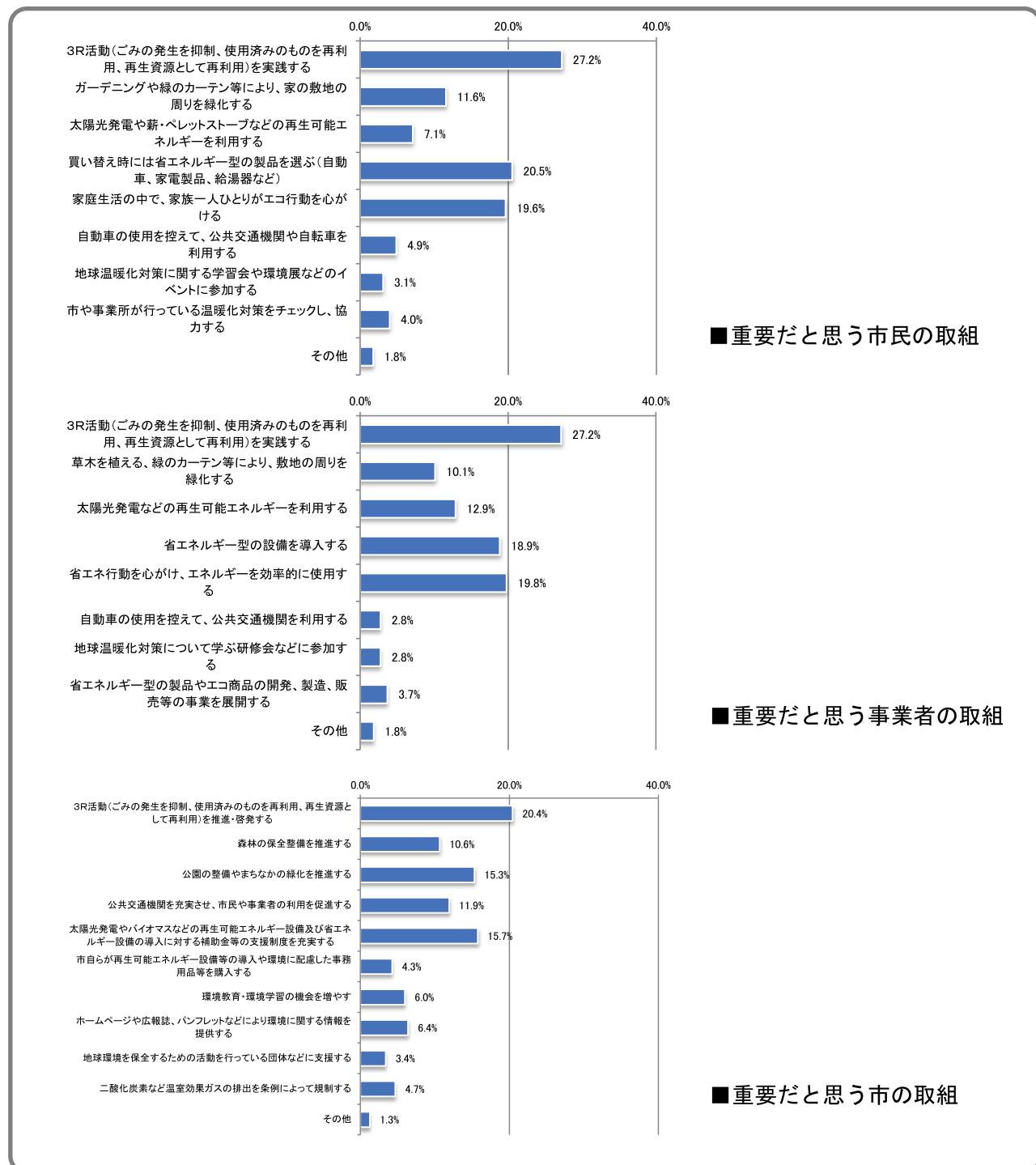
(1) 地球温暖化対策に対する考え方



図表 36-10 地球温暖化対策に対する考え方

- ・地球温暖化対策に関する考え方、「取り組むことは必要だが、経済的負担のかからない範囲で取り組みたい」の割合が69.2%で大半を占めています。
- ・地球温暖化対策に取り組みたい理由としては、「企業の社会的責任であり必要不可欠だから」の割合が65.4%で大半を占めています。
- ・地球温暖化対策に取り組む体制は、「市民・事業者・市が協力して取り組むべきである」の割合が63.7%で大半を占めており、次いで「市が中心となって取り組むべきである」が20.9%で高くなっています。

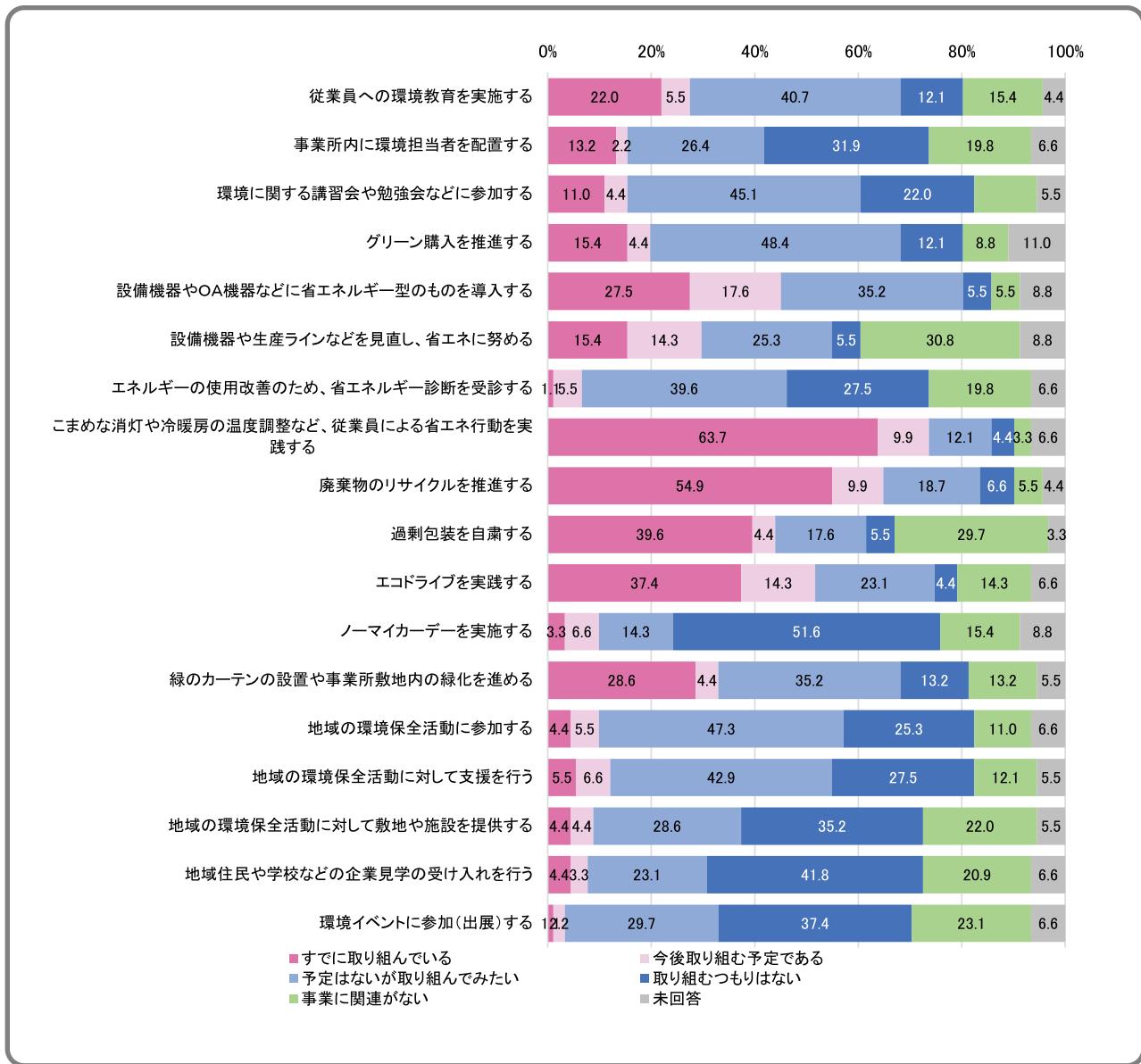
(2) 主体（市民・事業者・市）ごとに重要な取組



図表 3-11 主体（市民・事業者・市）ごとに重要な取組

- 重要だと思う取組は、市民・事業者・市いずれも「3R活動（ごみの発生を抑制、使用済みのものを再利用、再生資源として再利用）を実践する」が最も高くなっています。

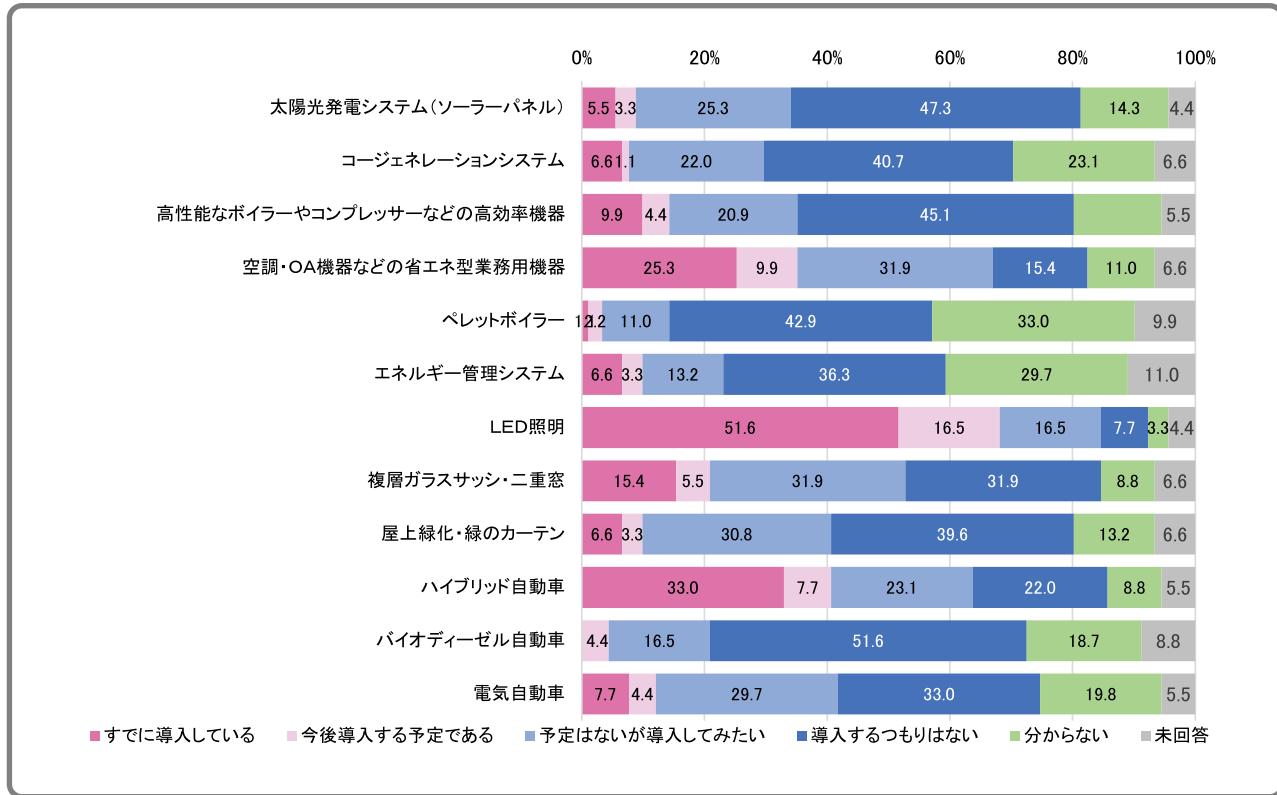
(3) 環境に配慮した取組状況



図表 3-12 環境に配慮した取組状況

- 環境に配慮した取組として、「すでに取り組んでいる」の割合が最も高かったのは「こまめな消灯や冷暖房の温度調整など、従業員による省エネ行動を実践する」で63.7%となっており、次いで「廃棄物のリサイクルを推進する」が54.9%となっています。
- 一方、「取り組むつもりはない」の割合が最も高かったのは「ノーマイカーデーを実施する」で51.6%となっており、次いで「地域住民や学校などの企業見学の受け入れを行う」が41.8%となっています。

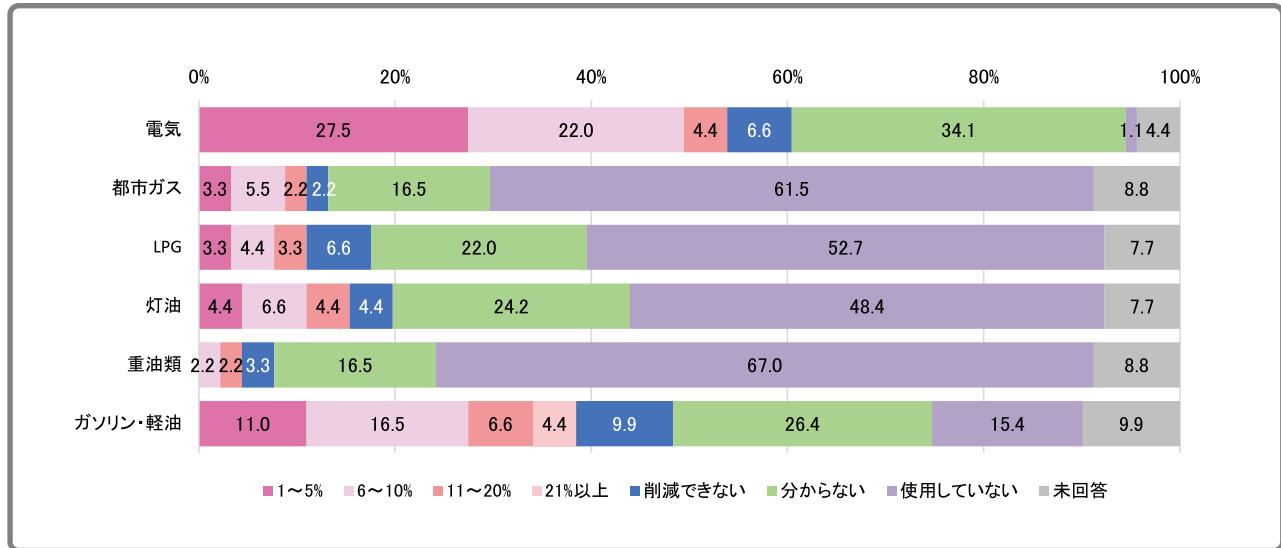
(4) 環境に配慮した設備の導入状況



図表 3-13 環境に配慮した設備の導入状況

- 環境に配慮した設備の導入状況について、「すでに導入している」の割合が最も高かったのは「LED 照明」で 51.6%となっており、次いで「ハイブリッド自動車」が 33.0%、「空調・OA 機器などの省エネ型業務用機器」が 25.3%となっています。
- 一方、「導入するつもりはない」の割合が最も高かったのは「バイオディーゼル自動車」で 51.6% となっており、次いで「太陽光発電システム(ソーラーパネル)」が 47.3% となっています。

(5) エネルギー消費に関する今後5年間の削減見通し



図表 3-14 エネルギー消費に関する今後5年間の削減見通し

- エネルギー消費に関する今後5年間の削減見通しについて、「電気」「ガソリン・軽油」を除くすべてのエネルギーで「分からない（未定）」「使用していない」が大半を占めています。
- 「分からない」「使用していない」を除いた場合、電気は、「1~5%」が27.5%で最も高く、次いで「6~10%」が22.0%で高くなっています。また、「削減できない」の割合は6.6%となっています。
- 都市ガスは、「6~10%」が5.5%で最も高く、次いで「1~5%」が3.3%で高くなっています。また、「削減できない」の割合は2.2%となっています。
- LPGは、「削減できない」が6.6%で最も高く、次いで「6~10%」が4.4%で高くなっています。
- 灯油は、「6~10%」が6.6%で最も高く、次いで「1~5%」「11~20%」がともに4.4%で高くなっています。また、「削減できない」の割合は4.4%となっています。
- 重油類は、「削減できない」が3.3%で最も高く、次いで「6~10%」「11~20%」がともに2.2%で高くなっています。
- ガソリン・軽油は、「6~10%」が16.5%で最も高く、次いで「1~5%」が11.0%で高くなっています。また、「削減できない」の割合は9.9%となっています。